

1. 茨木市とは

茨木市は、大阪府の北部に位置し、豊かな自然と古くからの歴史文化の息づくまちです。

また、恵まれた交通条件などから事業所や大学などが多く立地しており、働く・学ぶ・住むといった多様な機能を合わせ持つ総合的な性格の“まち”です。

茨木市は、淀川の北側の大阪府北部に位置し、北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市をはじめ箕面市・豊能郡豊能町に接している、南北に細長い形で、北部は山がちですが、南部には大阪平野の一部分をなす三島平野が広がっていて、市街地もこちら側に集中しています。

大阪市内（梅田界限）までなら、20分程度で移動でき、現在は吹田市と並んで、典型的な大阪市の衛星都市です。茨木は、人口28万人強です。

北から南に、安威（あい）川・茨木川・勝尾寺川が流れる。吹田市の高速道路・吹田ジャンクションの一部には茨木市の飛地が重なっています。

市名の由来は、イバラの木が多く茂っていたことや、イバラを切って屋根をふいたという説から「茨切」がなまって「茨木」となった説などがあります。

古代史の分野においては、茨木市は日本でも有数の古墳群地帯で、継体天皇陵とされるものなど古墳時代初期から末期までの各時代の古墳が現存しています。

また考古学上では、ここは「東奈良遺跡出土の銅鐸鑄型」でも有名です。銅鐸の解説文を読むと、まずこの遺跡の事は必ずと言っていいほど記述されています。

それは、近畿では比較的早くに鑄型が出土したことにもよるが、中型の完形な鑄型で、「流水文」と呼ばれる綺麗な文様が鑄型にくっきりと残っていて、この鑄型から製作された銅鐸が、香川県の善通寺市・大阪豊中市・兵庫県豊岡市から発見されており、当時広範囲な交易・文化交流があったことの証明ともなっています。

南茨木駅は万博の年にできた比較的新しい駅で、駅一帯が、弥生時代から古墳時代にかけての「東奈良遺跡」にあたる。東奈良遺跡は、この駅を中心に広がる弥生時代の大規模環濠集落で、この地域の拠点集落のひとつです。

二重の環濠の内部に多数の住居や高床式倉庫など大型建物があり、外部には広大な墓域もあった。なかでも銅鐸・銅戈・勾玉などの鑄型が出土した工房跡が発掘されており、ここの鑄型で生産された銅鐸が近畿一円から四国でも発見されている。この集落が奈良県の唐古・鍵遺跡と並ぶ日本最大級の銅鐸工場、銅製品工場であり、弥生時代の日本の数多くのクニの中でも、銅鐸を各地に配布できるような政治的に重要な位置を占めていたことが伺える。

この付近は「沢良宜（さわらぎ）」と呼ばれ、主な神社に「佐和良義神社」があり、迦具土神がまつられている。カグは銅の古語であり、サワラギもサワラ（銅器）ギ（邑）となることから、この一帯が銅製品の加工と関係が深かったことがうかがい知れます。

